

観賞魚として流通しているカワイワシ属魚類の同定

羽多宏彰・山口達成・三井洸太郎・細谷和海(近大農)

【背景・目的】

カワイワシ属 *Hemiculter* (ヘミクルター) はコイ科カワヒラ亜科に属する淡水魚である。本属魚類は中国、台湾、朝鮮半島など日本を除く東アジアに広く分布し、体と頭部は側扁して長く、吻は尖り、腹部は銀白色で背部はやや暗色を呈することなどが形態的特徴として挙げられる。また、本属は複数種含まれるとされているが、形態が非常に酷似するため、分類が混乱している。

2017年2月に私たちはペットショップとネットオークションで「ヘミクルター」という名前で流通している魚を確認した。しかし、観賞魚として流通していたこの魚はどれも属名のみで種まで同定されていなかった。現在、カワイワシ属の一種、*Hemiculter leucisculus* が Nitta et al.(2017)により、岡山県岡山市百間川に定着していることが確認されている。今後遊泳性の高い本属魚類が広く流通し、日本各地の淡水域に放流された場合、定着し、在来の遊泳性魚類(オイカワやカワムツなど)と競争する可能性が高いと考えられる。そのため、現在流通している個体を詳細に精査し、基礎的情報を集積することは今後の対策に非常に有用になる。そこで、これら観賞魚として販売されていた「ヘミクルター」を購入し、種の同定を行った。

【材料と方法】

大阪府羽曳野市西浦のペットショップから購入した6個体、ヤフーオークションから落札した5個体、計11個体を供試魚として用いた(下図参照)。計測および計数は Hubbs and Lagler(2004)に従い、31項目の計測を行った。脊椎骨数の計数には3個体使用し、軟X線装置撮影後、細谷(1983)に従い測定した。

【結果・考察】

これら11個体はそれぞれ平均で体長/体高が5.48倍、体長/頭長が4倍、体長/尾柄長が6.2倍、体長/尾柄高が11.48倍、頭長/吻長が3.84倍、頭長/眼径が3.49倍、頭長/両眼間隔が3.9倍、頭長/尾柄長が2.09倍、頭長/尾柄高が2.87倍、尾柄長/尾柄高が1.86倍であった。計数形質では鰓耙数は19-20、側線鱗数は49-53、側線上方横列鱗数は8、側線下方横列鱗数は2、脊椎骨数は $38+4=42$ であった。これらの形質を用いて Nitta et al.(2017)、伍(1980)などと比較した結果、これら11個体を *Hemiculter leucisculus* であると同定した。

これら11個体について2つの由来が考えられた。

- 1) 朝鮮半島等、本種の本産地から直接流通している場合。
- 2) Nitta et al.(2017)で報告されているものと一致したことにより、岡山県岡山市百間川から採集された個体が流通している場合。

しかし、これらの由来については不明な点も多いため、今後も慎重に由来をたどる必要がある。



図. 標本写真